

鷲見神社研修報告

令和4年11月23日勤労感謝の日に高鷲文化財保護協会会長の西脇清美氏、副会長の水上精榮氏、会員の平井道則氏、川尻斉氏、福手均氏が、上村強氏運転の振興事務所公用車を利用して山県市にある鷲見神社で行われた「第五七回全国鷲見家祭」へ会員である鷲見尚武氏の案内で参加した。

9時から鷲見神社に於いて参拝・読経・焼香が行われ、9時半からは場所を変えて廣嚴寺本堂で法要読経の後、全国鷲見家総会が行われた。鷲見健会長が挨拶、鷲見明俊氏の事務報告の後に、高鷲文化財保護協会として西脇清美・鷲見尚武・平井道則の3氏が挨拶した。10時30分からは鷲見保重公の墓前、大智寺で法要読経に参加して、解散した。

この研修は、「鷲見氏統治 820 年顕彰」のための活動で鷲見氏顕彰行事準備委員会が行ったもの、高鷲文化財保護協会は共催団体であるので、会員の皆様に、高鷲文化財保護協会の最近の動きをお知らせするものです。

●北野の鷲見氏

鷲見家保を初代城主とする郡上鷲見郷は、土地僻地で遠く、また美濃国中央の勢力になるには不便であった。そのため郡上11代城主鷲見行保の二男**鷲見保重**は、弟新左衛門保房と共に文明年間、土岐成頼の武将として各地を転戦し、その戦功によって北野の地に500貫を得た。そして明応の乱の時には土岐頼成に味方し100貫文の土地を得た。永正7年守護代の齋藤利良が急に北野城を攻めたので、北野城は寡兵で齋藤方を防ぐことができなかった。鷲見保重は自害しようとしたが、領民や家臣に思い止められ、最後に酒宴を開いて大智寺の林の中で切腹した。その時、殉死する家来は13名であったそうです。次に土岐正房は保重の子供の保定を北野城主としました。その後、鷲見直保が北野城主となります。天文16年まで在城し、土岐頼芸のために奮戦したが、大桑城で戦死しました。直保の従兄弟の鷲見忠直が鷲見家を継ぎ北野城へ入りました。齋藤道三とその子義龍の戦い(弘治の乱)の時、道三と共に長良川の戦いで戦死しました。その後一族は齋藤義龍に仕えた後、松平家や池田家、遠藤家、百姓に帰農する者など全国に散らばっていきました。

●鷲見神社

祭神は郡上太郎武蔵権守藤原朝臣鷲見頼保で、神社にはその由来は次のよう書いてある。

「永禄年中(1160) 都は衣笠の地より出でし。藤原頼保公は鷲狩りの功により鷲見の家名と芥見の庄八ヶ村を御賞として天子より賜り、文治元年名城鷲見城を築き永き基を確立されたと伝えられる。代々栄え、文明



10(1478)年10世保重公は、郡上より北野城に進出、永正7(1510)年齋藤利良の大軍に攻め落とされ自刃。その子保定公は、直保、保光両弟共に母を伴い当地に遁れ、一門再興祈願のため、伝持せし頼保公の木像を当山頂に祀り、衣笠大権現と名付け一族の守護神となせり。近年にいたり再建され鷲見神社と称した。 鷲見家会」

なお、昭和45年3月に鷲見神社本殿が再建され、この神社の礎石には鷲見城の礎石が用いられていますし、高鷲の鷲見城横にある鷲見神社は、この神社から勧請したものです。

廣巖寺 (臨濟宗妙心寺は)

廣巖寺は由緒書によれば次のように書いてある。

「永正7(1510)年山県北野城主鷲見保重が斎藤利良との戦いに敗れ、自刃した。再起をかけた嫡男保定も赤尾に於いて討ち死にし、二男直保、三男保光は母(保重の令室：松野)と共に高富に逃れた。先祖の鷲見頼保を大権現とし衣笠山に祀り、再興を願う。松野は大桑村松陰氏の娘で高富村に庵を結び、尼となって先祖の供養をした。大永8(1528)年2月1日に松野が逝去したので、この地に葬り禅宗の寺を建立し「廣巖庵」と号し、母松野をもって開基とする。その後、二男直保が改めて淳岩和尚を迎えて廣巖寺と呼ぶようになったのが始まりである。」



廣巖寺には立派な頂相(禅僧の肖像画)があり、木造薬師如来像とは別に、昭和になってから他の寺から寄付された日光・月光両菩薩像、十二神将像がある。

鷲見保重及び松野の墓があることからここが北野鷲見氏の菩提寺となり、また全国鷲見家の事務局も兼ねている。

大智寺 (臨濟宗妙心寺派)

雲黄山大智寺は、美濃西国三十三観音霊場第25番札所で、岐阜県岐阜市山県北野に境内を構えている臨濟宗妙心寺派の寺院です。

境内に大檜がある大智寺の創建は不詳ですが、鎌倉時代に開かれたのが始まりとされ、雲黄山と号した天台宗の寺院だったと伝えられている。戦国時代の兵火により堂宇、記録、寺宝な大きな被害を受けて衰退しますが明応9年



(1500)、北野城主鷲見美作守保重が玉浦宗眠(瑞龍寺悟溪和尚八哲の1人)を招いて再興、堂宇を再建すると本宗に改め、鷲見家の菩提寺としました。

江戸時代に入ると幕府から庇護され朱印状18石8斗を賜わると寺紋に徳川家の家紋である葵の紋を掲げることが許され、最盛期には14の塔頭を擁しました。

大智寺の寺宝である絹本著色悟溪宗頓像(文明18年、縦103.1cm、横51cm)と絹本著色玉浦宗珉像(永正6年、縦102.6cm、横51cm)が岐阜市指定重要文化財に指定されている他、境内にある大智寺の大ヒノキ(推定樹齢約700年、樹高30m、幹周6.6m)が岐阜県指定天然記念物に指定されています。また、松尾芭蕉十哲として知られる各務支考が幼少期に大智寺で修行を行っていた関係から晩年、大智寺の門前に獅子庵を設けて過ごしており、貴重な事から岐阜県指定史跡に指定されています。

明けましておめでとうございます。本年もご一読
よろしく願います。